

## ◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 荒川流域ネットワーク

26A-21

代表者：代表理事 鈴木 勝行

URL : <https://arakawa-ryuiki.net>

### 1. 活動が必要とされた状況

東京湾と荒川水系の水質状況の改善により、2006年から遡上する稚アユが激増したが、入間川水系に魚道のない取水堰等が存在するため、劣悪な遡上環境が続いていた。私たちネットワークが環境改善を提案したことで、埼玉県による遡上環境改善事業が実現し、入間川・越辺川水系の12つの堰等へ魚道が設置された。

設置された魚道を効果的に活かすため、遡上状況を調査してアユの遡上効果が上がらない魚道に対しては、補修等の活動も必要になってきた。また、入間川水系の夏の風物詩であった地曳網・刺網・釣りなどの川漁体験を通して、流域の人たちや子供たちに川漁や川遊びの文化を伝承していく必要があった。



長楽堰での標識作業(5月10日)

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

3月8日に都幾川の長楽堰で堰下に板でスロープを作り落差解消作業を実施した（作業員3名）。長楽堰上流の遡上効果調査のため、5月10日に標識作業を行い、稚アユ2,878尾に標識を付けて放流した（作業員14名）。7月1日の都幾川での投網解禁に合わせて矢来堰下流で調査を開始し、上流に向かい順次調査を実施。支流の槻川は10月21日、都幾川は11月2日まで調査した（調査従事者延べ41名）。アユ漁体験と魚捕りイベントは、3回開催することができた。8月11日に都幾川の嵐山町二瀬橋でスタッフ22名、参加者43名で実施、8月20日に高麗川の日高市獅子岩橋でスタッフ24名、参加者62名で実施した。10月8日に越辺川の鳩山町石今橋でスタッフ25名、参加者26名で実施した。



都幾川での地曳網漁体験(8月11日)

### 3. 活動の成果

渇水のため急遽長楽堰上流に変更した遡上調査では、上流の都幾川で4の標識アユを再捕し、矢来堰の魚道を遡上したアユを確認できた。3回実施した魚捕りイベントは、猛暑の中であったが、毎年あるいは年数回参加する家族もあり、多くの申し込みがあった。この活動が定着してきているようである。参加した若いお父さんたちに川漁の面白さを知ってもらい、子どもたちにも川遊びを体験してもらうことができた。



地曳網漁で魚を探す子供たち

### 4. 今後に残された課題

都幾川の長楽堰に対する魚道設置に向けた活動や高麗川で遡上障害物になっている取水堰が残されており、魚道設置を進める活動も必要である。入間川水系へのアユの遡上数が大幅に減少しているため、東京湾からの遡上数を増やすための活動も必要となっている。